

## 問われるインドの民主主義

-----アルンダティ・ロイをめぐって

河内 研一

「民主主義」対「権威主義」とは、民主主義を自称する側が「敵」を名指すための図式だと西谷修は言ったが、今やバイデン大統領は「権威主義」に代えて「専制主義」を対置させて使用する。中国包囲網の一計として QUAD なる 4ヶ国の枠組に「民主主義国」インドを招き入れた。「世界最大の民主主義国インド」の民主主義の実態とはいかなるものか？

3月に始まったインドのコロナ感染の爆発的拡大もあって、7月発刊の3つの月刊誌(紙)がインドを取り上げている。一つは日本 AALA の機関紙 7月号の佐藤宏による「インドの新型コロナ禍とモディ政権」、二つ目は『経済』で西海敏夫の「インド---コロナ禍下の農民運動の新展開」、三つ目は『世界』でアルンダティ・ロイの「インドのパンデミック」でこれには訳者の竹中千春が「封鎖を乗り越え、支援と連帯を」という解説を付している。

佐藤はインドにおけるコロナ禍を詳述するとともに、モディ政権を「首相府を中心とした集権政治で、野党やメディアの異論を激しく攻撃し、弾圧する不寛容な政治」と特徴付ける。そして「政権は、連邦議会での討論、全党会議など、野党の提案には一顧だにしない。コロナ対策に集中した閣議すらこの間一度も開かれぬ」とし、「野党も含めた正常な政治過程の再開、専門家も加えた国民的な態勢の構築が強く求められている」と結論づける。そうしたモディ政権を支える組織として狂信的な RSS (民族奉仕団/民族義勇団) の危険性を、佐藤は嘗て「岐路に立つ「世界最大の民主主義」---モディ政権下のインド」として日本 AALA 理論情報誌第 6号で詳述していた。

西海は強行採決された新農業法の内容を詳述し、その新自由主義的農業政策に反対する農民の昨年 9 月以来の長期にわたる大規模な闘争を紹介する。そして「現在進行している民主主義の危機はイスラム教徒を標的とするヒンドゥー主義化であり、さらに地方分権・州自治を弱体化させようとする動き」であるにとらえ、「連邦行政府と首相府への権力集中、司法の独立性に対する圧力、大学人事への介入」、さらには「モディ自身および取り巻きが進めるモディ首相の「個人崇拜」化の試み」を、これまでにインドにはなかった「カルト主義的な異様な動き」と非常に危惧する。

さてアルンダティ・ロイであるが、竹中が紹介するように、彼女は現代インドを代表する行動する知識人であり、イギリスのブッカー賞も受賞している著名な作家でもある。イスラム弾圧に抗議し、反核・反原発運動やナルマダ川のダム建設反対運動で勇名を馳せ、アメリカの対テロ戦争と帝国主義への鋭い反対者である。著書『ゲリラと森を行く』は実際ナクサライトの同行取材記であり、『中国は抵抗する---八路軍従軍記』をものしたアグネス・スメドレーをも彷彿とさせる。

『世界』の論考で彼女は、インドでの第 2 波のパンデミックの状況を自らの周辺での出来事を詳細にスケッチすることで、その悲惨さ、無残さ、そして政治の愚かさを世界に訴

える。「ファシスト的なヒンドゥー至上主義のナショナリスト組織である民族義勇団(RSS)は、独自の武装民兵組織を持ち」、メディアをそして人々を脅す。彼女が発信するインターネット・メディアにはモディ支持者から組織された轟々たる非難が書き込まれる。言論弾圧の厳しい中、現実問題として物理的・身体的な危険も伴うがゆえ、彼女に賛同する人々はコメントを控え、沈黙を強いられる。彼女は見えない賛同者の存在を信じての発信となる。痛烈な皮肉は健在だが、プライドもひとまず脇に置き、命懸けの悲痛で悲鳴にも似た叫びといえようか。

『武漢日記』の方方(ファン・ファン)、彼女も魯迅文学賞受賞の著名作家だが、酷いバッシングや当局の削除にもめげず彼女が発信を続けられた背景には、毎晩彼女のブログを待つ1億近いフォロワーの存在を実感できたからでもあろう。言論の自由において、果たしてインドと中国のどちらの民主主義に軍配は上がるのだろうか。

以下に訳出したのは、竹中も解説中で紹介しているが、『スクロール』(5月4日)に掲載されたものである。この文章の存在については『世界』の発売前に北海道 AALA の鈴木頌氏から教示されたことを記して感謝したい。

**アルンダティ・ロイ：私たちには政府が必要です**

**ナレンドラ・モディ首相への嘆願 「どうか引退を」**

私たちには政府が必要です。如何ともしがたいほどに。私たちにはそれがないのですから。まさに酸欠状態で死にかかっています。救いが手元にあるというのに、それをどうすべきか私たちは然るべき方法を持ち合わせていないのです。どうすることが可能なのでしょうか？まさに今ここで。

私たちは2024年(次期総選挙)まで待てません。私を含む人々は、ナレンドラ・モディ首相に何事かを嘆願する日を迎えることになろうとは想像だにしていませんでした。私としてはこんなことをするよりは刑務所行きのほうが増しでしたでしょう。しかし今日、自宅で、路上で、病院の駐車場で、大都市でも小さな町や村でも、森の中でも野原でも、人々が死んでいるとき、私は一介の一市民として、自らのプライドは呑み込み何百万もの仲間の市民と声を合わせてこう言います。「お願いです。どうか引退して下さい。今直ちに」と。私はあなたに懇願します。引退して下さい。

この危機はあなたが作ったものです。そしてあなたには解決不可能です。あなたは一層悪化させるだけです。このウイルスは恐怖と憎悪と無知の中で増殖します。意を決して反

対する人々をあなたが弾圧するときに、これは増殖します。真実が報道されるのは海外のメディアだけというところまであなたがメディアを統制するときに、これは増殖します。当意即妙に答えることができず、就任以来何年もたった一度の記者会見も開かなかったような首相を持つとき、そして気の遠くなるような恐怖のこの瞬間にも、このウイルスは増殖するのです。

あなたが去らないかぎり、何十万もの私たちが落とさずに済む命を落とすことになりま。ですから直ちに辞任を。あなたの名誉は守られます。あなたの前途には瞑想と孤独の素晴らしい生活が待っています。それはあなた自身が望むところとおっしゃっていました。ただこの大量死が続くことを許してしまえば、それは不可能になってしまうでしょう。

あなたの党にはすぐにでもあなたに取って代われる人が大勢いらっしゃいます。この危機の最中にあるのは政敵たちと上手くやっていたいかなければならないと分かっている人たちが。その人物があなたの党の誰であれ、RSS（民族奉仕団）の承認のもと、政府と危機管理委員会を統率していきます。

州政府の首相たちは、全ての政党が選任されていると満足できるように代表者を選ぶことができます。会議派も全国政党であることによって委員会の一員たることができます。加えて科学者たち、公衆衛生の専門家たち、医師たち、経験豊かな官僚たち。あなたには理解できないかもしれませんが、これが民主主義といわれるものです。反対政党なき民主主義などないのです。それは専制政治といわれます。このウイルスは専制国家をこよなく愛します。

あなたが今辞任しないとすると、この大発症は、世界への脅威であるがゆえ益々国際問題として捉えられていますので、即ち、あなたの無能さは、私たちの国内問題に他国が干渉し管理しようという合理的な口実を与えてしまっているのです。このことは主権をめぐる私たちの厳しい闘いを危うくするでしょう。私たちは再び植民地と化すでしょう。これは本当にあり得ることです。このことを軽視してはなりません。

ですからお願いします。辞任して下さい。あなたがそうすることこそが最大の責任の取り方です。あなたは私たちの首相でいる道徳的な正当性を失ってしまっています。